

人工知能（AI）による大腸ポリープの内視鏡診断を開始 （内視鏡画像診断支援ソフトウェア「EndoBRAIN」を北陸初導入）

大腸がんは、国内がん死亡数第2位・罹患数第1位と、近年増加傾向にあります。大腸内視鏡を用いて早期がんや前がん病変である「腫瘍性ポリープ」を切除することで、大腸がんの死亡率減少に寄与することが海外の研究で報告されています。ポリープには、腫瘍性ポリープの他に、切除する必要のない「非腫瘍性ポリープ」も存在するため、医師は、検査中に両者を的確に判断する必要があります。

今回、不二越病院では、生体内の細胞までリアルタイムに観察できる超拡大内視鏡「Endocyto」と超拡大内視鏡画像を人工知能（AI）で解析し、医師の診断を補助する内視鏡画像診断支援ソフトウェア「EndoBRAIN」を北陸地区で初めて導入し、医師の第一の目、AIの第二の目を活用して、大腸がん発生および大腸がん死亡率を効率よく低下させることで地域医療に貢献してまいります。

【EndoBRAINとは】

オリンパス社製の超拡大内視鏡（Endocyto）（※1）で撮影された大腸の超拡大内視鏡画像をAIが解析し、検査中にリアルタイムに「腫瘍性ポリープ」（※2）または「非腫瘍性ポリープ」（※3）の可能性を数値として出力する診断支援ソフトウェアです。

- ※1 最大520倍の光学拡大機能により、リアルタイムに細胞レベルで生体観察が可能な内視鏡
- ※2 早期がんや前がん病変であり、切除する必要のあるポリープ
- ※3 腫瘍ではなく、切除する必要のないポリープ

